

あ　と　が　き

本年度も会員の皆様の積極的な御投稿によって、総説2編、原著14編、報告6編合計22編の論文を収録することができました。会員の皆様の活発なご研究の一端を相互に確認することができたことと多大の御協力に感謝致します。

本年度より信州大学環境問題研究教育懇談会は、発展的に信州大学環境科学研究会に改称されることが、平成3年1月19日の総会において了承されました。ますます会の発展と会員の研究業績集（信州大学環境科学論集）の充実が期待されております。業績集も体裁の統一と原著論文につきましては各学部の編集世話人によって査読が行われ3年目となりました。また、会の名称変更により英文名も「The Annals of Environmental Science Shinshu University The Society of Environmental Science, SU」となりました。今後なお一層の発展充実が期待されます。

本年度で13年目を迎えた研究業績集掲載論文は、海外からの別刷請求、論集1冊という形で益々その評価も高まっていることがうかがわれます。

また、総会と同時に第1回の信州大学環境科学研究会を学会様式研究発表9題、特別講演2題の内容で行われ、学内外から多数の参加があり今後継続的な研究交流の場になるものと思われます。

この他に、3月24日には地域開発と環境問題第3回シンポジウム「生活圏の環境問題」が3つの大きなテーマ（1. 生活環境整備と景観、2. 人里環境と野生動物、3. 高速道路の整備と地域環境）のもとに総合討論が行われ、多数の参加が予定されています。

本年度も総会の研究打合わせ討論の中で、今後本研究会の目ざす地球的規模と地域性の特徴、研究対象の拡大と研究者間の共同研究とそのための交流などさまざまな角度から将来にわたる適応について活発な意見交換が行われました。これらの意見交換、研究交流、学際的共同研究などの発展と充実が一つ一つ本研究会の重要な課題であると思われます。

最後に、本研究会の益々の充実した発展のために、現在は研究組織からはお名前をうかがい知ることができなくなっておられます諸先生方を名誉会員とした名簿を作らせていただきました。お気づきの点事務局へご教示いただけますれば幸いです。今後も、会員および関係する諸先生方のご指導により本会が益々発展充実し、地域の環境問題解決に重要な位置を示されることが期待されているものと思われます。そのための会員の皆様の積極的な日々の努力と発表・交流の場を益々大切にしなければならないのではないかと考えられます。

平成3年3月11日

二 木 安 之